草木奇品家雅見 地

一百七十三
伊藤萬太郎記
特 7 3 162
尾張伊藤圭介之記

国立国会図書館　タイトル『草木奇品家雅見 3巻』 請求記号 特7-162
ガラス使用

特7-162

尾張徳川

草木奇品家雅見 文政

青山種樹家金太ノ著

刻

国立国会図書館　タイトル『草木奇品家雅見 3巻』 請求記号 特7-162

ガラス使用

特7-162

尾張伊藤

国立国会図書館　タイトル『草木奇品家雅見 3巻』 請求記号 特7-162

ガラス使用

大橋集水園奇品

河蘭陀本國焼

雲停寫

大橋い矢久保の人や其園を集水園と号し殖産はなり世業ふ所の草木盆栽皆是也

一示培養に長るにより予盆い夏物もまた安南和蘭呂宋等の諸海外の舶上を集め番土製作の器といえども西肥上茅ヶ品を愛沢佐て花木是を為ふ皆鮮を尊ぶ其業繁人多よりて繁とし元文一年細業を大五種写真彩画して同好の徒を姑の頒ちて一時の興を共に世と南蠻の種類を移ふ一に此人備を作る意渾て残を存じ孤品珍芸を重んじ性豪邁は豪象也

文政七甲申年　應爰人ゝ雪台吾書

擬三十六歌仙撰

永島ウブ出羅漢撰
窪田南蠻、
水野万代、
下り石花、
高室南蠻、
鳥山南蠻、
上田ヒハ茶、
水野丸葉、
白斑入長葉大、

長葉松平、
三五郎針葉、
孫次永嶋羅漢、
弥七南蠻、
孫次南蠻、
小右衛門ウブ出南蠻、
飯田黄斑入長葉、
飯田青出南蠻、
飯田長葉紫舟、

青斑入七木

窪田豆葉、アンシンテウ花、大久保海野、
飯田黄斑入大葉大、飯田黄斑入羅漢、飯田霜降、
飯田黄斑入高野羅漢、

青葉五木

飯田針葉椹猴、飯田小葉花、飯田獅子、
飯田姫葉、飯田米葉、

青葉三木

大橋胡麻葉、小三郎達磨、亀五郎花、

掃込海野、
相馬白斑徳若白出羅漢、
山梨猿猴、
四谷海野、
大野花、
金王翁、
飯田枝替南蠻、
水野青出南蠻、
水野細葉、
極黄小葉羅漢、

飯田茶筅、
飯田小葉砂子、
飯田丸葉花、
飯田鮫大、
飯田高野羅漢、
飯田白斑青出長葉、
飯田極黄長葉大、
飯田縁抜柳葉、

国立国会図書館　タイトル『草木奇品家雅見 3巻』 請求記号 特7-162
ガラス使用

市谷佐橋ハ
積羊の好人
なり

寛政ハ小石川学問所の傍ニ住ス
舊来奇品の好人ハ
[illegible]
[illegible]
[illegible]

松本、年筴赤城下の住る姫人の間あり
渦つださ、葉つやよくてしこ
ことふすぐれたり
山ゑの花、白花ゆ一て世間に
有利ハよく植たげ繁盛あり

和田幸久甚子
春也青山ゑ住
ふ山野ふ涙
行て奇品を索ーとも

岩上ハ青山ふ住て図する
白霞輪ハ尤奇観
同時ふ
番町崖毒巣鴨植亀ゞ
家とも葉形斑色とも
ハも速ざるの少く
一奇幸ふ
名づけて四軒とゞ

国立国会図書館　タイトル『草木奇品家雅見 3巻』 請求記号 特7-162
ガラス使用

又其子勇馬ハ
ついで奇品を
愛し今父子ともに盛ん
種樹をこゝ
号するさんをハ色よき
美品なり

紀藩阿部ハ青山の人舊来種樹を好ミ殊ニ茗を愛常ニ曰
夫茗の徳ハ色其氣味苦甘無毒ニ而痩癘を治し疾熱を去り渇を
止睡を少し志を悅しめ力を添氣を下し食を消ス故ニ唐の徳宗ハ
茶の税を始宋元の世尤盛ん陸鴻漸が茶経蔡君謨が茶譜丁謂が
北苑茶録其他を述其品を著ス亦蒙山中頂の茶ハよく宿疾を
祛用ル由ハ亦仙を為ハ地仙と為ハ六経ニ茶と載ル或人の誤ル

楊升庵が丹鉛錄師古が漢書の注を知るべしされば栄西が腸を洗
皇朝にもこれを愛筑前の脊振山山城の栂尾八十余年と宇治内津又
阿部薦野相良の外茶を産せざる國も茶を嗜む家もあるべし
和漢其氣味を賞する者八常に其樹を愛する者と聞き其
花を詠ずる者屋に俳諧者流のこと其茶を賞して氣味を賞する八真の
茶を賞する者に非故いふこゝろれば已食用に充る時必其芽を摘其筍を

摘極て其樹を傷ぬ由に陸羽盧同八茶の
賦あり伯鷗宗易も茶の疑あり和漢千古
真の茶を好む者唯ちを有こゝ

世に眞江田と称する南燭の斑を雪月花
と詠ずと眞備ひたち多賀白ふなりと言
はるる蒼白と駿州葉南燭
諸家に多く咲いと雖も
右甫出るものなし聞
翔葉の榕樣南燭あつも
亦もいて未だ詳らかに

其鯛を今乃山高の弟祖母といふ平家の人なり
そもそこのさゝこのいとゝ詠歌さるとゝろきをよりこゝ
たいもろ那なすとゝ姫みくいみづ[illegible]せうまた
うちあひとゝろ[illegible]所より絲の木色こゝろすとゝなつ
浪ひらき國々菜苟をあるこゝやなひてあやゝきし
かをとうまつもたる色をめでる子のやゝたまうをす
人みな女のめけすきよいとゝすゝけづきし
たりとすめくふなみくあるぬさだゝよのつのの
女と心ざゝとゝろあるだ鳥ゝやまひとゝふのふたゝでこと
めくとゝもみをけ秋と十里ひろの巻とのうみけ
あそびひろきてゝあるゝなやおとハきゝびといつり
うらやまを爲ま人て[illegible]

国立国会図書館　タイトル『草木奇品家雅見 3巻』 請求記号 特7-162
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『草木奇品家雅見 3巻』 請求記号 特7-162
ガラス使用

文化の比里小居に淺草なる大音稽舍の邊に別墅を
構へ奇々盆栽を貯へ静境の樂事しる藏する所の奇品
多き中小笑に図して地栢の年来培養の苦心中より
生ずる珍品まして雪と歌へ白魂玉艶
愛しつる

上田ゝ
四谷
大番町ふ
住ゝ
別号
を錦林亭
と云多年盆栽を好む
但獨立一家の好士なり

文晁寫

国立国会図書館　タイトル『草木奇品家雅見 3巻』 請求記号 特7-162
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『草木奇品家雅見 3巻』 請求記号 特7-162
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『草木奇品家雅見 3巻』 請求記号 特7-162
ガラス使用

高砂の老松園より出る所本草の書品目にのせ今園に於て第一奇とす
宗頂が立葉を歌に詠しもの園中にもしばしば咲出る葉長く紅を
帯びて八尺ばかり花は白雪をちらしたるかゴ
龍鱗のごとく八白花にして枝変りたるにつくらも無くして生じ両種ともに雲仙
無比の名品也
栢丘主

明石縮産
立葉おりと
雲停寫
明石縮産
きりんかく

高橋翁不言齋江戸城西大窪里之隱士也初住于城南芝街後避其熱閑喧置嶌而從此焉翁性愛花卉不啻愛之專精思於其培養若夫覇王樹之有豹斑及石菖蒲之稱山吹者山吹者初秋發黃至冬差濃越至春不更色其色与世所謂山吹者相似因有此稱本邦有之者實翁培養之妙術令之然矣其用心之至又悟盆栽之妙訣於是乎尋常花卉則勿論雖海舶載来之異卉奇花移可以供盆盌之玩故劇職之官士煩業之估人不窺山莊別園得以對花卉於明窗淨几之間不亦愉快乎今茲文政乙酉九月方外之友某来請于余記翁之小傳曰記其顛末以應之云

混外野衲宥欣

夫七種は春と秋とに二行り秋の七種はいと多く　万葉八　三十　五十　山上臣憶良歌

秋野花歌二首

秋野に咲有花を指折可伎數者七種花其一は芽之花乎苍葛花瞿麥之苍姫部志
又藤袴朝貌之花とゝ云ふ

諸人に論らはんとて長月の末に菊の花を折て松園大人の宿に
和名抄に云ふ　春年ふる人の家に蔓草の夏の蔓草とそいと早く去れむ
らの人　撫は懐風藻に夏撫とも云ふ　俗間に木撫とも云ふ
和名抄に云ふ　新撰字鏡云　桔梗も撫と和名抄に云ふ
より云ふ　中昔に絵ふ中に女房のつゝひて秋の七種を
書る図に桔梗を桔梗と書て七種に入れ　若菜を出て枕草子に
寛平年中に始て　拾芥抄　飯食部に七種菜　蘩蔞　蘩蔞　芹　菁　御形　須々之呂
佛座と云ふ　又同書に七種菜　蘩蔞　芹　菁　御形　須々之呂
佛座　寛平年中行事秘抄に云ふ　公家根元云　内蔵寮　正月上子日に
内膳司より正月上子日に奉る　寛平年中より始る事なり　延喜十一年

正月　百小後院　七種に若菜を供ふ云云　同書に七種に拾芥抄に大
内　資益王記云　文明十三年正月六日自松尾若菜二合進云云　今も松尾ノ社司
より奉る　我国にて中古より和名抄に芹　水芹　味芹　芹の平無毒云云
薺　那奈都　蘩蔞　味酸平無毒者也。　蘩蔞　倍良　菁　阿乎奈　御形　須々之呂
菁　名之　蔓菁　右四種は本草和名和名抄等に出て詳なり　故に七種の数は
数不集　夫木抄　袖中抄　拾玉集　五百番歌合　古今集　云云。　菘。　蘿蔔
甚根の形ふくらむ　加茂真淵　春さきて花咲ける　加茂真淵　春さきて花咲ける
来ますんとたりひうきやうまるやうに　御形　佛座は
又後の俗称　故に諸説に定説なし　鼠麹草一名母子草　御形
とゝ臭蒿一名土器菜　佛座　御形　佛座
とりて考へ　鼠麹草　佛形　とは万葉の歌
大岡雲峰先生植物　四の射　身毛寒　東都高名家
びて常菜七草　身毛寒　東都高名家
贈　送　東都高名家

いひ蘇生歌　四季歌仙　真顔

四季なうし野ふかまとしとうえき利

猫なしい西に寄ふ蓑毫雪寄り

ふ〜〜てもかまとかの虎仕耳草　遠栗園　石樹

こう白蓑さ〜陰真玄苔ふ蓑〜

ち年〜苔〜ちの赤ちう称の毛　陸奥橋　葛馬

あひ〜い宮代月〜たつまむ

蔓撫子蔦垂ふ毎　山東京伝

宮代ちつ稲つもむし毒人も

京〜ちの野道ふ年と夜陸ち兎　蜀山人

うちふ民宮代を宮盛の宮桔梗　五寸亭

ふもしせ玉西うり日蔓ち玉　亀山

あ〜賤代山ふ似〜うちちの

毒玉蔓ふもちうちの名　伯子堂　大表

浅茅ヶ四谷より信濃へ多く
有之青山紅葉を愛し
よくやしなう
図まるまつてまるく
葉よりつまりまるく
まるこの上に葉りくふさく
葉のさきにあきまつあり
ほそき黄葉あり脈まつすぐ
まるくまつすぐまるくも秋も
茶山
浅ふ白花ちや
茶山まる
まるこの
上脈あり
浅ふ葉ゆづき

草木奇品家雅見　巻之中
ちんあいゆづき
だんなへハ千駄谷の人元ふ石門
身出せし奇品よく　阿波屋町
人の口碑ふ傳ふ　仁左衛
だんあい　ぶふみみづき
ちんあい　ひさいき

米幸ハ商家なり赤阪ニ住ち
盆栽を好ミ奇品を愛し
生涯一日も倦ことなきものなり

米幸つだき

あつふさろうじ

上さろんひさん

鳥山ハ
大久保
ニ住ち
好人の聞あり

あさろかうじ

からしなあつて
実ハ
大にて
ふ、あ
ずし

あらさろあぶ

国立国会図書館　タイトル『草木奇品家雅見 3巻』　請求記号 特7-162
ガラス使用

斑入七木

鈴木ろこ楸　朝倉きふ楸　昌慶紅のけ楸　中西根元楸

古弥七紅のけ楸　(の)きふ楸　亀五郎寂上楸

小葉五木

茂井小葉伽羅引楸　樋口細葉青出楸　隠岐細葉楸

(の)細葉舟底楸　大塚長次九葉伽羅引楸

高持斑入三木

讃岐楸　(の)楸　寒河楸

青葉斑入三木

志賀ちりめん楸　永島まき葉楸　隠岐黒出楸

青出斑入三木

上田楸　大橋七雲楸　ひか杉平つげ葉楸ハ小葉の樫ふ出ずしてふ有く又梅につげもきふ楸ハまふ品無られど番かの一ふすところ

池亭楸

隠岐芝交八廣尾の人種樹ふ長ぜ、こてふ楸の奇品を好ふ事類を廣く集今、こてふその名義を尽悉孝く

古今奇品をもてる人少ふ〜ゆ予まさ〜これをもさ〜ことの楸を多く集さらの三ふ二十一品をふ幾ふ梓行して世ふ開ふ今ものこの書ふ二ふを載ふ已

是合を小日向進のうちもの所の者
所為種義繁なる事他よりこれたり
図する事ハあるのゆゑ明あく
出る事ハ大きふとく茎細くして枝
数多也青木ハ茎形亀甲ゆゑ
雅趣りよくみのり事ハ者親とゝふ
所成ハ茎　紀州　蜆山

国立国会図書館　タイトル『草木奇品家雅見 3巻』 請求記号 特7-162
ガラス使用

木象いとあでこ

撫子ハ葉茎共細きる糸の如僅二三寸ホ〳〵よく花を開花の多ハ〳〵ちぼ〳〵もホあり

木原雪朝ハ青山の人なり畫を好み和歌を詠ず俳諧を能せまた年来の種樹家なり松柏及清種圓形を造り立花造ホ成る事花姑も及ざる所甚母雷を畏事甚し相傳来樹克雷を避ると由て桑の種類を盆栽して多く貯自己嗜好の中ホ孝心を離ざる真至誠古人ホ恥ざるといへども雷を避るの手段ハ彼臍を抱て笑ひきわや

来の新樣ゑ丹〳〵て愛ぎ〳〵其育その者なるゆ他ホ類少兒友その侯て〳〵仁字いとゝ絶ハ永鳴出ホれ〳〵も樣ゑ丹の侯愛ホ字

仙波ハ南芝の人ゝ其豪富東都の中五指を屈ぶ〻種樹を愛ゞ為ゝ銀仙の別墅ゝ隱居ゝ専奇品ゝ好て盆栽ゝ多集む斯人ゝ一ゝ是を成ゝ故ゝ珍品奇種不日ゝ稲漢ゝ衆人其威ゝ赫耀ゝ元来多能ゝ詩文書画及他の雑技ゝ至るまで能く研究ゝ酒茶の間ゝ遊戯ゝ無もゝ其生産を怠ゞ實ゝ大平の逸民ゝ謂つゞ〻

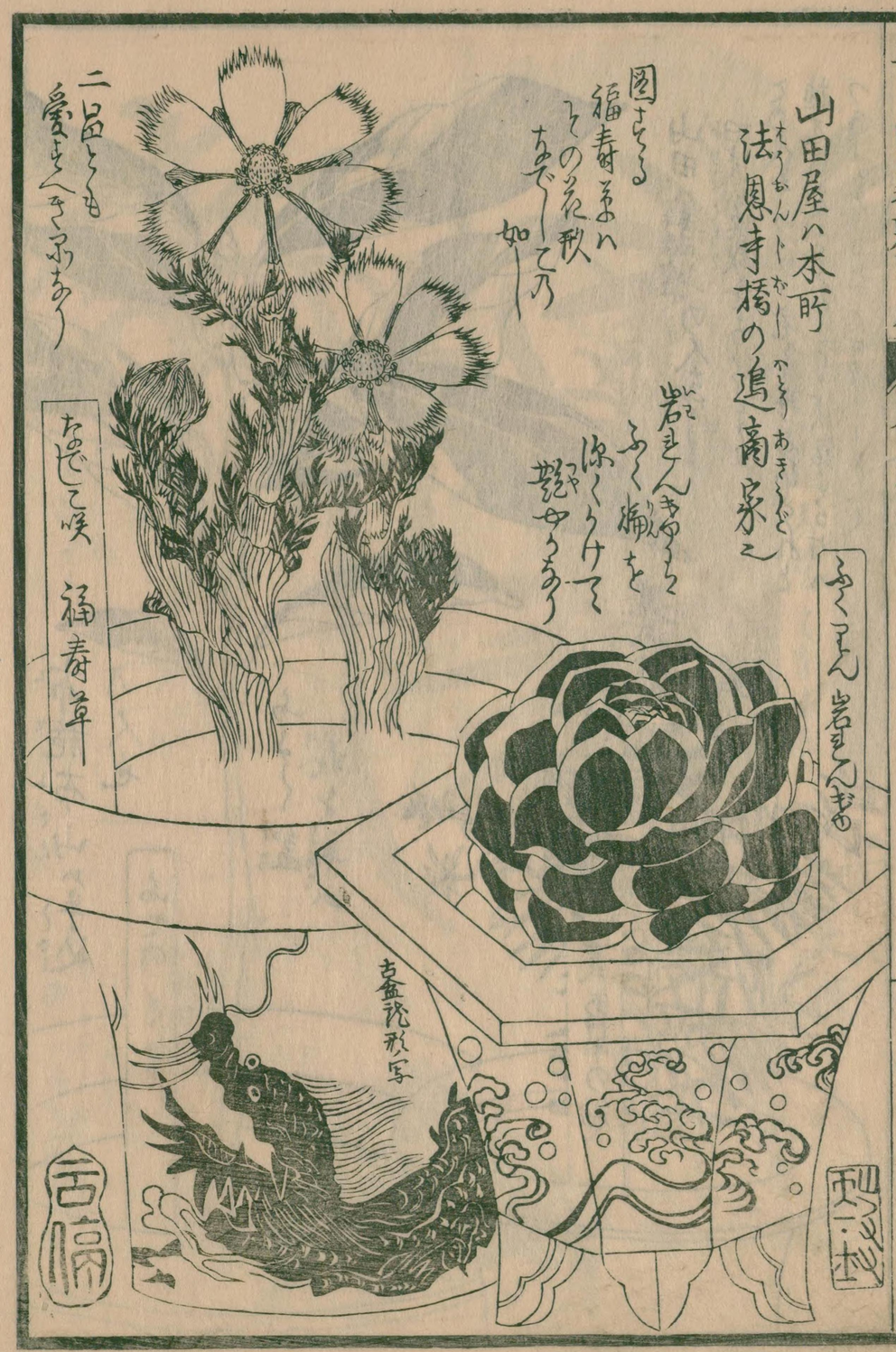
国立国会図書館　タイトル『草木奇品家雅見 3巻』　請求記号 特7-162
ガラス使用

英出と称するを權田東作名園第一
世にまれいしとも図する處の南天八橋
枠より瞬紫色生して四季と変ずる紅
白斑色変じて其貴称益ます
隆々速まりて今栃木人見を称す
孔雀飛ぶが如き斑過ぎて是亦愛すべ
きの里

松堂

唐内左衛門屋敷の菊花
高麗高麗ふくしゅう園
乃国あるを花の本菊
くるくる生ず黒菊
あるを花の加る
国に数種を載る
おくれ物の菊
これらく主人の
うるを原の国
六十七番

国立国会図書館　タイトル『草木奇品家雅見 3巻』 請求記号 特7-162
ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『草木奇品家雅見 3巻』 請求記号 特7-162
ガラス使用

杉浦ハ
礫川ノ
住ス園
する金銀
仔柏一樹
ヲ以て黄
斑と白斑
の枝変
希代の
奇品ニ

亮根藩
育樹園ヲ
旧来の
好人ヲ
培ふ
長ク
にの
ヲの色黄金
のごと
ひろく
に至ル
ヤ
伊勢傳ヲ
駒込乃高家ヲ
図ル岩ひば
花ヲ

国立国会図書館　タイトル『草木奇品家雅見 3巻』 請求記号 特7-162
ガラス使用

霍田あやり

尾張下り くろくるとち

次のふゆづかあ

やまとさうらかし

国立国会図書館　タイトル『草木奇品家雅見 3巻』　請求記号 特7-162　ガラス使用

佐橋八二代の盆栽家へ
廣く和漢の種を集中
庭一日も花あらざるなし
よって四季園と号さん
奇品藥苗と至りまで
彼我の称呼泥舛を
正しく志厚し

佐橋みんじんぐ

又家秘の藥を世ふ
ふすは甚仁
佛ごし

佐橋伊達みちのくさん

佐橋ふりもちあんひだ

霍田里鶴と番甲御麗吾
ゆ住さて草樹何とあく定
花木を作りあく盆栽代
歌人

関さるなる紅さを小菊めしゑ
黄ふよくまるうしる
姫ゆゑ黄彩さ
このゆゑさ
さしゑく
いつる

明林

芳仁霍花　ちのぎ

芳仁霍花　ちのぎ

国立国会図書館　タイトル『草木奇品家雅見 3巻』 請求記号 特7-162　ガラス使用

あひのふひ〜ひど

松嵩を巣鴨の人奇品を
多く集　好人聞あり
此家に在所のあひの斑
南天燭ハ斑廻りを品也

のちさん

麻黄　赤つるあい
ハ　紅花
杉
ほうき
ゆり
このちのの
ちのの
ちのの

珊瑚珠実蘭

城北根津
別當所
何某
所愛
也

枝葉
他品異
自然有珊瑚
象故名爾

東玉画

国立国会図書館　タイトル『草木奇品家雅見 3巻』 請求記号 特7-162
ガラス使用

赤井ちや

赤井八巣鴨ふ住する圖する所の茶木を實生すして葉の形
斑の形上好すして藏する家の名を蒙らして光を揚るこさ
奇品なり

黒埜ち番街御厩谷の人ち
曾ち奇品の本末形丹甲乙
許品丹ちる独芸を明察し
ちちちち

図ちる形ぎい主
ふの極ちりちち
枝葉ちちく薄ふ
名品形ち

黒埜ち品あぎ

黒埜ち品あぎ

黒埜ち福ちじ

黒埜ち品ぎふちじ

国立国会図書館　タイトル『草木奇品家雅見 3巻』 請求記号 特7-162
ガラス使用

雲州封君廣瀬侯ハ四溪の名園繁とする盆栽、いのちてかたふ毋こうしゆ岳くしよ図する南燭ハ許多の星霜を経ておゝの根株ゝ巖のごとく細葉軟枝基者あくまでも赤樹の木ハ共葉龍雲にに乗する形の如し因て雲龍とゝ二種共ゝ古今の奇品なり

冨樹 [illegible]

種對家繁亭金杏。摸輯當時都下諸名園中所有奇花異卉凡若干種。以為一書。將行于世。聞余家園有一二變葉者。來請余顧瑣亡弊園。何足以稱奇品。示諸世間。恐取大方之咲。固辭不許。於是摸寫其一二。以塞責云

旭溪花隠栢對園主人識

礫洲居士書

大慶うちとく

矮生丸葉
茱萸以黄般
俗云
ちつこ
おくさと

我朋寫

玉屑栢　世ゴ云和国ニ生
白珈ろう

栢樹園

古樹根臺之図

鷲洲寫

ちくとんかたち

上原弄鬼富巣暗み住しずく
寄る波ふとも尤長寿みてる
五條茶くゝ知る甚ふい
青山みる住し佛名を
月庭安部亭とそん

現入九葉知るべし

幡屋八成子新町
農商を業とそ
茶をなろふ
実よ一寸品と
いふ迄

ふるゝ雪春より夏さく
葉なる事一條めくく
いろゝとちゝふゝもろ

横洲ふとね

たゝ長茶の木

須麦は大久保北町小
住〜て〜園中庭〜て
奇品ハ〜〜〜あり花木
庭樹をはちうゑ中ゑ
多寡乃門人百をとり〜
〜〜〜〜この
中よりはたち〜〜
口授を伝〜〜〜〜〜〜

あしのふ須麦　姫きやがく

きふ須麦　男きやがく

四谷牧〜〜〜
京根吉ハ多年
盆栽の名人なり
はちのひや〜〜ひふ
ムを〜〜〜〜〜〜〜
春原〜〜

国〜る〜て〜ハ
葉〜〜〜〜〜〜
〜〜〜〜〜〜〜
なく〜〜〜
ふ〜〜〜〜
〜〜〜
〜〜〜〜〜

俗入花下る

国立国会図書館　タイトル『草木奇品家雅見 3巻』 請求記号 特7-162
ガラス使用

福寿草の八多く信濃より出る松竹出也又今年出秋久出羽横出
府内近々より出ることを地ゆくこの代甲武州吉祥寺より出
を先上とす侯出ることを侯の色大抵にして
りや自富田出の品りへ
叫れたり

或説云本邦富士山之産以正月元旦之頃発花故
今俗祝云福寿草盆福寿
本邦富士之
時諸也

白山園田出
ちやぶ根八白花
福寿草の八
白花

園田出
ちやぶ根

園田出
万年青

廣葉
鳳子おもと

葉半八多葉の
門人あり
橋の実生
葉多るものく
花
めを
かけ
さまるる
ふめを
今ふ
花菖蒲の位を
定る撰者あり
を
け人ふ
下メ早連
本所連本
を補助し
多く同好人を

草苔園
万年鳳子無特

此人多年永習ありて
園のたく奇花を生
はやうも永習ありふたゝび
歳名ありて

国立国会図書館　タイトル『草木奇品家雅見 3巻』 請求記号 特7-162
ガラス使用

特7
162

雪峰大圓翁ハ四谷の人にして書ハ唐文を倣生字ハ能くする事ハ人廣嶋藩ハ自號ハ丈高く葉の長き小至て六四五尺ハ及ぶ

義淡ハ初稚ハ植て多の強ケ二稚を小名品と云つ

国立国会図書館　タイトル『草木奇品家雅見 3巻』 請求記号 特7-162
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『草木奇品家雅見 3巻』 請求記号 特7-162

ガラス使用